

「第18回 大月みらい協議会(人口問題・地域活性化を考える市民会議)」 会 議 概 要

日 時 平成29年2月24日(金) 午後7時から午後9時まで

場 所 大月市民会館 4階視聴覚室

出席者 石井市長 ・ 委員13名(6名欠席)

小笠原則雄、小鷹侑子、三枝良光、佐藤茂幸、志村淳、志村賢二、中島啓介、
仁科美芳、福嶋尚美、星野喜忠、三木範之、武者稚枝子、渡辺勝

【事務局】 石井総務部長、石井企画財政課長、藤原地域活性化担当リーダー、榎本、堀内

1. 星野議長あいさつ

皆さんこんばんは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。大月みらい協議会も発足して2年以上たち、この3月で一度任期の区切りとなります。私たちはこれまでに議論した中で、行政の皆さんにいろいろと意見を出してきました。その意見には、行政でなくては出来ないことが大分ある一方、行政だけでは出来ないこともありました。

石井市長は様々な場面で『協働』という言葉をよく使っています。この言葉は行政と市民が一体となって物事を進めていくことだろうと思っています。そのような中、これまでのみらい協議会での議論を通じて、私は、今、行政がどのようなことに重点を置いて我々の意見を取り入れて進めようとしているのか、あるいはそれに対して、私たちはどのように対応していったらよいのか悩んでしまいました。行政の皆さんが我々の意見に対して、具体的にどのような政策をもっているかを紙で知ることはできました。しかし、中身がどのようなになっているのか、その中で私たちがどのようなお手伝い出来るのか、あるいは行政として私たちに何を望んでいるのかということがわからなくなってしまい、あらためて考えてみる必要があると思いました。

そこで、先日、佐藤副議長と一緒に石井市長へ相談に伺いました。そうしましたら石井市長が、「私も会議に出て、一緒に議論に加わりましょう。」ということになり、今日はお忙しい中出席していただいています。

今日は、石井市長からいろいろな話をいただく予定ですが、聞くだけではなく私たちと意見交換をしていきたいと思えます。この大月みらい協議会をリフレッシュするためにも、このような機会が必要だと思いました。今日はどうぞよろしくお願いします。

2. 石井市長あいさつ

皆さんこんばんは。お忙しい中にも関わらずご出席いただき、本当にありがとうございます。平成27年1月に皆さんにみらい協議会委員を委嘱させていただき、既に2年が経過しました。

会議発足当初、正副議長とお話をする中で、私が出席しない方が委員の皆さんのお考えが出て来るのではないかとということもあり、会議には出席しないということがありました。そのような中で、皆さん方には、いろいろな想いを、それぞれが意見として出していたと思います。その皆さんの一つ一つのご意見が、どのような形で市政に反映できるか、あるいは今後どのように問題提起されながら、解決に向けて皆さんとどのように議論を重ねていくかということだと思います。

皆さん方には18回も会議を行っているという中で、皆さん方の想いとお考えがあるのですが、私たちが進めている方向が果たして同じ方向に行っているのか、それが見えなかった部分もあったのではないかと私自身も感じております。しかし、私どもの目線から見ますと、それぞれの想いというものは行政の多くの部分で取り入れられている部分もあり、一方で、新たな問題点としては、共に協働していきながら問題解決に向けていろいろな対策や取組みを行っていくということも大きな部分であろうかと思えます。皆さん方の2年間の積み重ねというものは、我々にとりましては大きな財産と考えております。皆さんの意見を整理しながら、これからの絞った問題の解決に向けて、さらにお力添えをいただきながら、いろいろな分野の中で皆さん方の得意とするところに特化しながら、取組みを深化して参りたいと私は考えています。

私どもが掲げました2040年に19,000人という人口を維持していくために、どのようなことをしていかなければいけないのかということは、当然我々だけでは解決できる問題ではありません。また一方では、市民の皆さん方のお考えだけでは、中々大月の将来というものは見えていかないのではないかと考えます。官と民が一体となって、知恵を出しながら汗をかいていただくことで、この地域が生き残っていける流れになると思います。そのためには、みらい協議会の皆さん方にお力添えをいただき、今後もいろいろな分野の皆さん方の知恵や経験、ご意見を取り入れながら、地域の特色を活かしながら地域の再生を図り、地域の活性化を目指していきます。そして何よりも、ここに住んでいる皆さん方を、もう少しいろいろな場面で登場していただき、活躍していただくという流れも、皆さんと共につくっていきたくて考えております。

これまでの皆さん方の積み重ねは決して無駄ではなく、むしろいろいろな部分に我々が活用させていただいています。そのお答えを明確に返していってないのかなと一方では感じております。しかし、今日、教育の関係では、教育委員会が何を考えているのか、そしてこれからどんなことを取り組んでいくのかということをお示ししています。こういうものを一つの起爆剤として、これに皆さん方のお考えを取り入れながら、教育の部分を考えていきたいと思えます。そして、その他の、例えば企業の方や、地域で活躍されている方、あるいは首都圏とのつながりのある方も含めて、皆さん方に知恵をお借りしながら、大月のビジョンを確立していきたいと考えています。

今、都市計画マスタープランの策定を進めていまして、骨格が出来つつあります。ここにさらに肉付けをしていかないと、人口減少に歯止めはかけられません。これからが、皆

さん方にいろいろな部分で活躍していただくことになっていくと考えております。

今日はそのような考えの中で、皆さん方とそれぞれの想いをぶつけ合っていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。併せて、これまでの皆さんの取組みに対しまして心から感謝を申し上げながら、共に歩んで参りたいとお願いを申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。

3. 議事

(1) 第17回会議概要について

- ・第17回会議概要の市ホームページへの公開について承認された。

(2) 市長との意見交換

- ・テーマ「今後の大月みらい協議会の取組みについて」

星野議長より、意見交換の進行役に佐藤副議長が指名された。進め方について確認事項があった。

【佐藤副議長】

ご指名を受けましたので、市長との意見交換の進行を務めさせていただきます。

次第にもあるとおり「今後の大月みらい協議会の取組みについて」というテーマを設定させていただいております。冒頭に議長からのお話にもありましたが、この大月みらい協議会は、2年を経過しまして、この3月に一度任期の区切りとなっております。

市の意向としましては、大月みらい協議会に一定の評価をいただきまして、4月以降も是非継続していただきたいという話をいただいております。そのような中で、今後、場合によっては委員のメンバーの入れ替えがあったり、あるいは残っていただいて、大月みらい協議会の委員として、行政との協働を実現していただければと思っております。とは言え、4月以降、どのように進めていくのかの確認がないと、私たちが今後、どのように大月みらい協議会に関わっていったらよいかかわからないということで、今回このような場を設定させていただきました。

進め方としましては、まずは石井市長からご講演という形で、大月みらい協議会に、今後このような内容を検討してくれないかというお話をいただき、そのお話をいただいた上で、私たちの方からいろいろな意見や質問を、敢えてぶつけさせていただきたいと思っております。そのような趣旨で進めさせていただきたいと思っております。それでは、あらためまして石井市長から、今後のみらい協議会へのご提案や方向性についてお話をいただければと思っております。

【石井市長】

それでは、私から皆さん方に、これからご協力いただきたいという考えをお話しさせていただきます。

私は以前から『医療』と『教育』ということが非常に重要だと言ってきました。地域が生き残っていくために一番大事なことは、ここに生まれ育ち、やがては旅立つことになる人もいるわけではありますが、小さい頃からの教育が非常に重要であると考えています。特にこれから私が考えていることは、3歳から小学校に入学するまでの教育が、将来に向けて我々が目指すべき保育・教育であろうと思っています。

そのような中で、大月市の教育委員会では、どのような考えを持って対策をしながら取り組みをしていくかということを示しています。その中にふるさと教育とは何か？という項目があるのですが、そこに関わる皆さん方にご協力をいただきながら、大月の本当の意味のふるさと教育は、やはりそれぞれの個性を引き出す教育であろうと思います。10人いれば10人の特色がありまして、1人1人が違う形を持っていることだと思います。そのような教育を目指していくことが大月のふるさと教育だと考えます。社会教育、学校教育ということの中で、子どもたちにどのように指導していくかということについては、大月市の教育委員会をはじめ、市民の皆さんにいろいろなご協力をいただきながら、ふるさと教育を目指していこうということが私の考えです。今後、大月みらい協議会の会議で、場合によっては教育長といろいろな意見を交換しながら議論をしていただく必要もあると思っております。

医療という部分では、病院の施設の整備は出来ております。しかし、人材的な部分、あるいは経営的な部分というところでは後れをとっております。今、病院ではコンサルタントを入れて、専門的な知見の中で大月の病院のあるべき姿をきちんと打ち出して、それを市民の皆さんと議論を重ねて、重要な医療というものを築いていこうと考えております。また、その大前提となるものが予防医療です。大きな病気になる前の予防医療というものを大月市民が目指していくことが大切だと考えております。以上の医療と教育というものが皆さんと共に取り組んでいく大きな要素としてありますが、教育委員会が今取り組んでいることや、今後取り組んでいこうとする考えについて、いろいろな提案や提言をしていただきたいと考えております。

地域の活性化という部分では、皆さん方からご意見をいただいた情報の発信と、自然の環境をどのように利活用していくのかということで、現在、バイオマス発電とそれに係る林業の取り組みや、耕地面積が狭い中での農業について、特化した農業というものをこの地域で目指していく必要があると考えます。

まず、バイオマス発電に絡めた取り組みの中では、林業の再生ということを目指していかなければいけないと考えます。大月は利便性の高い交通の要衝で、首都圏から多くの方々が大月を訪れています。大月の自然は、心と身体が疲れている都会の方々を回復したり、あるいはまた仕事をやる意欲を起こしてくれています。そういった「いやしのまち」とい

う流れをつくっていききたい。その流れをつくっていくためには、自然の環境をもう少し整備して手を入れていかなければいけないと考えます。委員の皆さん方からは、そのような意見が出されたということを記憶しています。自然の恵みをいかに活用していくのかということを考えていききたい。自然の恵みを活用することで、観光、農業、林業というものを結び付けていく流れが出来ていくのではないかと思います。それによって、自然というものが大きな武器となって、我々に恵みを与えてくださるということが考えられます。それが効を奏すと、都会の人が、大月の環境、恵み、人の支えを享受することによって、大月に移り住んでみたいという人も増えてくるのではないかと考えます。今、佐藤副議長の取り組んでいるものは農業の第6次産業化ということで、酒米を自分たちの手で作って、酒造会社に納めて酒を造ってもらい、その酒を商品として販売するという流れが出来つつあります。そういうものを含めて、産・官・学・金・民という人たちが、連携をして一つの流れをつくる。組織をつくる。そこからお金が生まれてくる流れがこれからの取組みによって出来てくるのではないかと考えます。

次に情報というツールでは、今はインターネットが普及しているので、わざわざ東京に行かなくても、大月に居ながら仕事出来る「サテライトオフィス」というツールを使って、週に一度か二度、本社に行けば仕事の役割が出来ます。大月に居ながら仕事出来るのですが、それには住む要素という部分では、空き家ということが考えられます。空き家を活用する、あるいは閉校した学校の跡地を上手く結びつけていくことによって、様々な活性化策が考えていけるのではないかと思います。

もう一つ我々が考えていることとして、駅の近くでの住宅政策を考えています。働く場が近くなるなくても、駅の近くであれば、東京圏への通勤通学が容易であることから、人口減少の歯止めには大きな効果があるのではないかと考えます。今、住宅を新築すると助成金を出す政策を行っています。これが今のところ非常に効果が出ています。初期投資でお金がかかるのですが、そこに人が住むことによって市民税あるいは固定資産税等で還元されていくのではないかと思います。

それからもう一つは、この地元にいる産業をもう少し支援していこうと考えています。地元にいる産業は中小零細企業が多いと思いますが、このような方々がもう少し情報を共有しながら連携できる仕組みから、一つのものを作り上げていくという考え方があるのかなと思いました。1つの例を挙げますと、この3月議会で承認されないと駄目ですが、下和田小学校の跡地に医療機器の企業が入る予定です。医療機器の参入を地元の企業が目指しておりまして、この流れが順調に行けば、いろいろなパーツを中小零細企業の皆さん方へお願いできるようになり、そこから新たな産業が生まれてくるのではないかと考えます。

委員の皆さん方にはそれぞれの得意分野があると思います。ある意味では、いくつかの分科会に分かれていただいて、議論していただき、専門的な部分を研究していただく、あるいは意見を出していただくことも考えられるかなと思います。大月みらい協議会の委員であった新田前院長は、平成27年度をもって委員を退かれましたので、4月から新たに

委員として引き受けていただけるようなことも考えております。メンバーを補強しながら4月以降も取組みを進めていきたいと思っております。私が今、頭に浮かぶ範囲の中でいろいろとお話を申し上げましたが、これまでの話の中で、皆さん方からご意見をいただければ幸いです。

最後に、肝心なことを言い忘れましたが、大月駅の北側の部分についてです。駅の中でも特に大月駅、猿橋駅の桂台というところが、この大月のまちの核になると思っております。そのためにはどのように展開していけばよいのかということをお我々は進めていますが、皆さん方からご意見をいただければありがたいと思っております。よろしくお願ひします。

【佐藤副議長】

ありがとうございました。石井大月市長からいくつかの方向性をお示しいただきました。確認をさせていただきますと、1つ目はふるさと教育、2つ目は予防医療を中心に再構築が必要である医療関係、3つ目は産業関係として、大月の自然を活かし情報発信をベースとした様々な産業への考え方の提示がありました。バイオマスや林業、観光、農業についても示していただきました。そのような中で、4番目に挙げて良いのかわかりませんが、サテライトオフィスというキーワードも出てきました。大月でどんな働く場、ワークスタイルが考えられるかということも重点項目として提示していただきました。そして、ワークからライフという観点で、駅近くの跡地利用を想定しているのでしょうか。住宅政策による通勤通学ということも考えているということも挙げられました。また、産業分野で医療機器分野の強化ということも考えられているということでした。そして最後に、大月の核となる駅をどのように連結されるかということで、大月創生（都市計画マスター）プランの話がありました。

以上が私なりの整理でありましたが、このようなお話をいただきました。これを踏まえて、この中身についてのご意見やご質問をしていきたいと思っております。その中で、我々大月みらい協議会が今後どのようなことが出来るのか、フリーディスカッションで、思い思いのことをお話していただければと思っております。

●その後、石井市長とみらい協議会委員において意見交換が行われた。

4. 今後の日程について

次回会議は、平成29年3月中旬から下旬頃に開催予定。